

(其ノ一晝間攻撃)

1. 攻撃奏功ノ戦例

0593

〔I. 攻撃奏功ノ戦例〕

目次

一、	小數ノ兵力ヲ以テ敢然攻撃ヲ 實行シ有利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例……………	(四)
二、	小分隊ノ勇敢適切ナル指揮 克ク敵匪ヲ殲滅セシメタル戦例……………	(五)
三、	小隊長ノ適切ナル指揮ニ依リ寡兵 克ク數倍ノ敵匪ニ徹底的打撃ヲ與ヘタル戦例……………	(五)
四、	適切ナル戦闘指導ニ依リ敵ヲ包圍殲滅セシメタル戦例……………	(六)
五、	敵ノ意表ニ出デ之ヲ殲滅セシメタル戦例……………	(六)
六、	敵ノ意表ニ出テ包圍殲滅シタル戦例……………	(七)
七、	克ク困苦ニ堪ヘ敵ヲ包圍殲滅シタル戦例……………	(六)
八、	機ヲ制シ敵ヲ包圍殲滅セシメタル戦例……………	(七)
九、	虚ニ乘ジ敵ヲ包圍殲滅シタル戦例……………	(七)

0594

- 十、勇敢ナル突撃ニ依リ
 衆敵ヲ撃退セシメタル戦例……………(五)
- 十一、一分隊ノ勇猛果敢ナル突入ニ依リ主力ノ
 突入ヲ誘起シ有利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例……………(六)
- 十二、困苦缺乏ニ堪ヘツ、目的地ニ到着シ周到ナル
 戦闘準備ニ依リ敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘタル戦例……………(八)
- 十三、側方ニ進出セシメタル一部隊ノ
 勇敢ナル行動ニ依リ大打撃ヲ與ヘタル戦例……………(八)

0595

一、小數ノ兵力ヲ以テ敢然攻撃ヲ
實行シ有利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例

一、戦闘前彼我ノ概要

- (1) 昭和十二年十月二十六日午前三時二十五分、輝南縣參事官ヨリ紅軍匪（共產系）ト覺シキモノ約二百名、輝南縣城東門及東南門ヨリ襲撃シ來リ目下激戰中トノ報告ニ接ス。
- (2) 中隊ハ速ニ出動準備ヲ完了シ、午前四時十分松本准尉ノ指揮スル長以下三十六名ヲ以テ自動車三臺ニ分乘シ輝南縣城ニ向ツテ出發セリ。
- (3) 松本小隊ハ午前五時三十分、輝南縣城ニ到着セシモ該匪團ハ掠奪ヲ恣ニシ既ニ大灣溝（輝南東方約八軒）方向ニ逃走後ナリキ。
- (4) 小隊ハ更ニ中隊命令ニ基キ、午前六時自動車ニ依リ敵ノ退路ヲ遮斷スベク、輝南縣第二區流水溝ヲ經テ大灣溝東方標高七〇四高地ヲ目標トシテ急進シ、午前九時二十分該地ニ到着セシモ、該匪ハ既ニ七〇四高地東方稜線上ヲ占領シアルヲ發見セリ。

二、彼我ノ兵力、交戦セシ團體號

0596

我、獨立守備歩兵第五大隊第一中隊松本准尉以下三十六名、輝南縣森林警察隊熊本警佐以下七十名。

彼、匪首金日成以下二百餘名（内、鮮人半數以上）系統東北抗日聯合軍第二軍第六師所屬、全員小銃（輕機六銃）ヲ有ス。

三、戦闘經過ノ概要

(1) 松本小隊午前九時二十分、七〇四高地ニ進出スルヤ、敵匪ハ既ニ其ノ東方高地稜線ヲ占領シアルヲ發見シ、直ニ攻撃ヲ開始ス。之ト概ネ同時ニ大場園ヲ南下シタル約七十名ノ輝南縣森林警察隊ハ敵ノ左翼ニ現出シタルモ、戦闘ノ初期ニ於テハ敵匪ト誤認猛烈ナル射撃ヲ受ケタルヲ以テ、極力之ガ連絡ニ努メ、戦闘ノ中期ニ於テ漸ク連絡ツキ、爾後松本小隊ニ協力セリ。

(2) 松本小隊ハ敵ノ右翼ヨリ包圍シ先ヅ第一、第四分隊及擲彈筒手ヲ火線ニ配置シ、第三分隊ヲ以テ後方七〇四高地上ニ上ゲ、背後ノ警戒並敵情監視ニ任ジ、村上曹長ヲシテ第二第五分隊ヲ指揮セシメ、前方ノ要點ヲ速カニ占領ヲ命ジ、火線分隊掩護ノ下ニ前進セシメタルモ、敵ニ通ズル稜線ハ岩山ニシテ倭樹密生シ、歩行極メテ困難、所々幅一人ニ足ラザル所アリ。又兩側ハ絕壁ニシテ前進極メテ困難ナリシモ、逐次制壓前進シタルヲ以テ、敵匪ハ死物狂ヒノ抵抗ヲ試ミ、我ニ猛射ヲ浴セシモ、村上曹長ハ之ニ用スルコトナク、率先陣頭ニ立チ、部下ヲ叱咤激勵、勇躍敵陣ニ猛攻ヲ加ヘ、遂ニ要點ヲ完全

0597

ニ占領シ更ニ猛攻ヲ繼續セントシテ立ち上ラントセシ刹那、敵匪ノ急襲的猛射ヲ受ケ、不幸敵彈ノ爲
負傷ス。時ニ午前十一時頃ナリ。

小隊長ハ、之ト同時ニ全力ヲ以テ敵陣ニ肉迫攻撃シ、漸次敵ヲ壓倒セシモ、山岳峻峻ニシテ意ノ如ク
進展セズ。此ノ時輕機分隊竝擲彈筒手ニ掩護射撃ヲ命ジ、佐藤分隊タル第三分隊ヲ前方高地ニ進出セ
シメシガ、該高地ニ前進中、佐藤上等兵モ傷ツキ殞レ、續イテ沖田軍曹亦負傷セリ。

(3) 小隊長ハ斯ノ如キ悲惨ナル戦況ニモ拘ラズ、極力敵ニ肉迫攻撃セシヲ以テ、漸次敵ハ動搖ノ色アリテ
午後〇時三十分頃、東北方稜線ニ副ヒテ潰走セシカバ、一部ヲ以テ負傷者ノ收容ニ充テ、主力ヲ以テ
石道河子方向ニ向ヒ急追ス。サレド敵主力ハ大清水溝子東方五三二高地附近ノ稜線ヲ確保シ、尙モ頑
強ニ抵抗シ夕刻ニ至ル。

(4) 中隊長ハ諸情報ヲ綜合シ扇田准尉以下十四名ヲ指揮シ、午後二時輝南到着、午後三時輝南出發、松本
小隊竝警察隊指導ノ爲第一線ニ進出、午後五時三十分頃、松本小隊ノ位置ニ至リ、薄暮ヲ利用シ、更
ニ敵陣ニ向ヒ猛攻ヲ續行セシガ、敵ハ遂ニ夕暗ニ紛レ四散潰走セリ。

(5) 中隊長ハ、滿軍警察隊ヲシテ更ニ四散セル敵匪ヲ急追セシムル如ク指導シ、中隊ハ一先ツ追撃ヲ打切
リ、負傷者ノ收容ヲ完了シテ午後十時輝南縣城ヘ引キ上ゲタリ。

四、本戦闘ニ於ケル彼我ノ損害

彼 遺棄死體一六、推定死者三〇（密偵及土民ノ言ニ依ル）負傷者多數

我 日本軍負傷三、（曹長一、軍曹一、上等兵一）警察隊戦死一、負傷二

五、本戦闘ノ效果

(1) 紅軍匪ノ襲撃掠奪ヲ損ニセシメ、縣警察隊並ニ滿軍教導隊、治安隊ニ、約二百五十ノ匪賊ニ對シ五分ノ一ニ足ラザル兵力ヲ以テ敢然トシテ攻撃ヲトリ、急追捕捉スルノ活模範ヲ示シ、敵匪ヲシテ再ビ輝南縣内ニ侵入スルノ企圖ヲ放棄セシムル迄ニ徹底的四散潰走セシメタルハ、斃而後已、攻撃精神ノ發露ニシテ日本軍ノ威力ヲ認識セシメ、時局重大ノ折柄、如何ニ小數兵力ト雖モ、日本軍ノ存在スル地區ニハ安ンジテ其ノ業ニ就クベシトノ感銘ヲ呼ビ、益々皇軍ニ對スル信頼ノ度ヲ向上セシメタルハ、百ノ宣傳萬ノ宣撫工作ヨリモ優レタルヲ確信シテ疑ハズ。

(2) 敵匪ハ早朝ヨリ薄暮ニ至ル間、死物狂ヒノ抵抗ニテ、漸ク四散潰走セシモノニシテ、日本軍ニ依ル殘滅的打撃ヲ蒙リ、將來集團匪賊トシテノ行動ハ困難ナルベシ。（情報ニ依レバ分散山中ニ遁入セル狀況ナリトキク。）

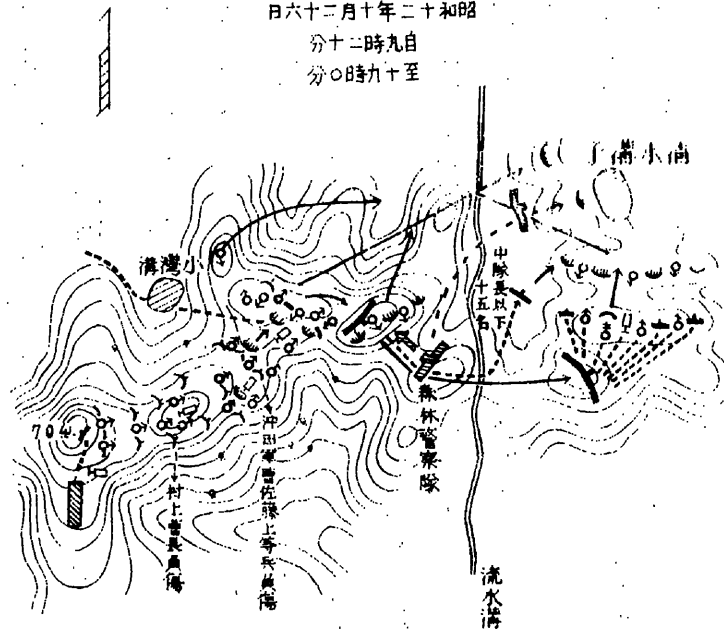
六、戦闘經過要圖別紙第一ノ如シ。

小灣溝附近戰關經過要圖

昭和二十二年十月二十六日

自九時十二分

至十九時十分



0600

二、小、分隊長ノ勇敢適切ナル

指揮克ク敵匪ヲ殲滅セシメタル戦例

五〇

0601

一、昭和九年當時ハ吉林省地區ニハ、大小幾多ノ士、共匪蟠踞シ、到ル處ノ部落ヲ襲撃シテハ糧秣、被服類ヲ強奪シ、各地ノ部落民モ亦彼等ノ襲撃ヲ恐レ、大半ノ者ハ匪賊ニ通ジアリテ其ノ勢力強大ナリ。

特ニ我が唯一ノ任務タル鐵道ノ警備スラ完全ニ遂行サレズ、京圖線ノ旅客列車ハ二度モ襲撃セラレ、特ニ五・六月ノ繁茂期ニ到リテハ、彼等ノ行動ハ益々活潑トナリ、二獨守ハ全力ヲ舉ゲテ該匪ノ討伐ヲ開始セラレタリ。當時第八大隊ノ編成ハ三個中隊ニテ、二・三中隊及大隊本部ハ敦化ニ、第一中隊ハ蛟河ニアリテ、中隊長ハ夜間戦闘ノ猛將ヲ以テ鳴ル故鹽野少佐ナリキ。

二、當時第八大隊ノ守備區域中最モ共匪ノ蟠踞セルハ、額穆縣及永吉縣境ニシテ、特ニ額穆縣境白石磊山附近ニハ、四海大平匪約二百名蟠踞セルモノノ如シ。

我が鹽野中隊ハ、主力ヲ以テ該匪ノ討伐ヲ命ゼラレ、六月一日駐屯地蛟河ヲ出發シ、六月三日午後五時、白石磊山後方約二十軒、大甸子部落ニ到着宿營ス。

中隊長ハ、直ニ密偵ヲ派シテ匪情ヲ搜索スルニ、約一五〇名ノ共匪蟠踞セル事確實ナリトノ報ニ接シ夜

間攻撃ニ決シ、左記部署ニ依リ前進ス。(四日午前十二時出發)

前進部署

第一小隊ハ北方ヨリ山地傳ヒニ前進攻撃。

第二小隊ハ中隊主力ト共ニ白石嶽河ニ沿ヒ西南ヨリ前進。

三、小隊長ノ實施セル事項

出發ニ當リ小隊長ハ小隊全員ノ水筒及携帶口糧ヲ検査シ、又小夜食迄検査セリ。(小夜食ハ常ニ一日先ノ分迄支給セラレアリ)

別命アル迄、水筒ノ水及小夜食ノ使用ヲ禁ゼリ。

午前五時(六月四日)深キ霧ノ立込ムル高地ニ到リ朝食ヲナシ、約二十分休憩ヲ實施中、突然前方高地ヨリ匪賊ノ射撃ヲ受ケタリ。小隊長ハ直ニ山ノ後方ニ下ルヲ命ジ、銃聲ノ方向ヲ監視セリ。

漸ク霧モ晴レ渡リ、見レバ前方高地コソ目的地白石嶽山ニシテ、附近一番ノ高地ナリ。

敵匪ハ常ニ附近ニ歩哨ヲ配置シアリテ、我ノ來レルヲ知り射撃セリ。

彼等ハ高地ヲ利用シ、堅固ナル陣地ヲ構築シ、樹木ニテ覆ヒ、山麓一帶ハ畑地ニシテ、守ルニ易ク攻ムルニ難シ。

小隊ハ中央稍ニ高地ニ進出シ、先ヅ重擲彈筒ニテ攻撃ヲ開始セルモ、陣地ハ見エズ。加フルニ重擲彈筒ノ修業僅カ二日ニテ、分解結合ヲ知ルノミ。爲ニ彈着不明、又ハ不發彈等アリテ、仲々陣地ニ命中セズ敵匪ハ我ヲ小數ト見テ、逐次包圍隊形ヲ取り、攻撃シ來ル。小隊長ハ突然、部下ニ交互ニ朝食ノ殘シアルヲ食スベク命令ズ。

部下ハ昨十二時ヨリノ夜行軍ニテ空腹トナリアリシヲ以テ、各部隊交互ニ急ギ食事ヲナシアル中ニ益々敵匪ノ近ヅクヲ見ル。畑ノ中程迄來レル時小隊長ハ急射撃ヲ命ズ。小隊ハ皆前盒ノ六十發ヲ射テ盡シタル程ナリ。敵ハ死傷者約二十名ヲ出シ、我ガ射撃ニ驚キ急ニ高地陣地ニ退却ス。時ニ我ガ中隊主力ガ銃聲ヲ目標ニ白石窟河ニ沿ヒ前進中ナルヲ發見シ、直ニ中隊長ノ許へ連絡兵トシテ石井、大會根、三須、(下候ニテ一等兵ナリ)ガ選バレテ出發セシニ、畑地中央ニテ敵ノ一齊射撃ヲ受ケ、前進出來ズ、附近ノ芋穴ニ三人共入りシニ敵ハ側方ニ移動シテ益々盛ニ射撃ス。

小隊長ハ此ノ有様ヲ見テ大聲叱咤、「ソソナニ匪賊ガ恐クバ死ンデシマヘ」ト大喝セルニ、此ノ聲ヲ聞キタル三人ハ突然芋穴ヨリ飛出シ、敵彈ノ中ヲ物トモセズ、駈出シテ中隊長ノ許ニ到リ、無事任務ヲ完ウセリ。

應テ中隊主力モ參加シ、側方ヨリ機關銃、歩兵砲ニテ攻撃セルモ、敵ハ約一五〇名ニシテ、陣地ハ附近

0603

一帯ノ高地上ニ在リテ、益々頑強ニ抵抗シ、朝五時ヨリ交戦約八時間、逐次敵陣ニ接近シタ刻、中隊長ハ、第一小隊ヲ正面ヨリ、第二小隊ハ後方ヨリ突撃スベク命ジタリ。

機關銃歩兵砲ハ陣地ニ對シテ猛射ス。

小隊長ハ、I.G.一個分隊ヲシテ現在地ヨリ超過射撃ヲ命ジ、全員ヲ集メ左記命令ヲ下ス。

- (1) 小隊長ガ突撃ヲ實行セシ上ハ、最後ノ一兵ニナルトモ中止セズ、皆小隊長ト共ニ戦死セヨ。
- (2) 今カラ十分間休憩シ、小夜食ハ全部食シ、水ハ最後ノ一滴ヲ殘セ。雜糞背糞ハI.G.ノ战友ニタノメ。
- (3) 時田上等兵ハ小隊長ノ傳令ニテ、常ニ小隊長ノ許ニ在リテ大日章旗ヲ振り、友軍ノ射撃ヲ容易ナラ

シメヨ。

小隊十五名ハ輕裝ニテ散開シ、樹木ヲ利用シ、我遅レジト山上陣地ニ突入ス。

陣地直前二十米ニテ、分隊長本山軍曹手榴彈ヲ投擲シ、真先ニ突入シ、敵匪二人ヲ刺ス。一同遅レジト突入シ、夢中ニテ刺ス。

爾後山上陣地ヨリ逐次陣地ヲ突撃シ、機關銃・歩兵砲ト協力シ、午後六時全ク陣地全部ヲ占領シ、該匪ヲ東北方ニ潰走セシメタリ。

四、本戦闘ニ於ケル彼我ノ損害

我 第二小隊長太腿貫通銃創

彼 戦死六十名、重傷六十名（目撃セルモノ）

五四

五、本戦闘ニ於テ得タル教訓

精神教育事項ニ就イテ

(1) 彈藥定數及携帶口糧ハ、勿論各人が携行スベク規定セラル所ナルモ、稍モモスレバ分隊長ニシテ數

回ノ討伐ニ出動シ、全然彈藥ノ必要ナキ等、誤レル觀念ノ下ニ彈藥及携帶口糧等輕ンズル風アリ。

本戦闘ニ於テ、第三分隊ハ彈藥ノ缺乏ニ陥リタル實例アリ。

(2) 本戦闘ニ於テ第一小隊ノ連絡兵三名ガ、敵匪ノ猛射ヲ受ケ、畑ノ中ノ芋穴ニ入ツテ前進セザル如ク

一地固著セル散兵ハ、稍モモスレバ地形ノ利用ニノミ腐心シ、前進ノ氣勢ヲ減殺スル事多キヲ以テ

注意スルヲ要ス。

本戦闘ニ於テ、突撃ハ不安ナルモノニアラズ。不安ナルハ反ツテ他ノ人ヨリ突撃ニ遅レシノ氣持ナ

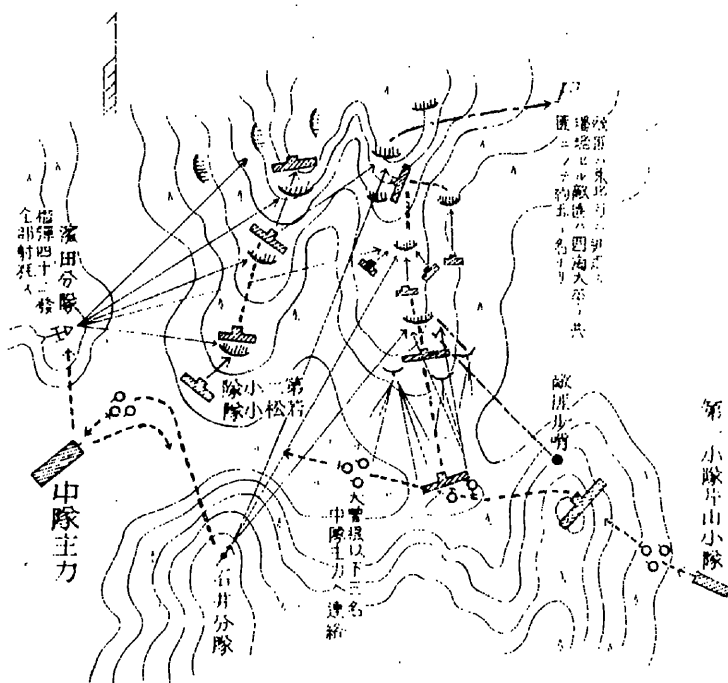
リ。又小隊長、分隊長ノ率先先頭ニ立テテ前進スルハ如何ニ、兵ニ重大ナル感化ヲ與フルカラ痛感

ス。

指揮官タル者ハ劍電彈雨ノ間ニ立チテモ、勇猛沈着部下ヲシテ仰ギテ富嶽ノ重キヲ感ゼシムル如ク

0605

白石砦附近戰鬪經過要圖



(3)

勉ムルヲ要ス。

本戰鬪ニ於テ、我等ヲシテ克ク十二時間ノ戰鬪ヲ繼續セシメシハ、一ニ小隊長ノ戰鬪ヲ顧慮シ宿營地出發前ニ於テ水筒及小夜食ヲ檢査セシ結果ニシテ、將來幹部タル者ハ此ノ著意ヲ必要トス。

三、小隊長ノ適切ナル指揮ニ依リ

寡兵克ク數倍ノ敵匪ニ徹底的打撃ヲ與ヘタル戰例

一、昭和九年四月二日ヨリ北黑線（北安鎮——大黑河間）ノ鐵道建設掩護ノ任ヲ受ケ、獨守歩第十四大隊第

三中隊長足達重正大尉ノ指揮スル一個中隊ハ、辰清ニ駐屯セリ。

該地ハ、鐵道起工前ハ人跡稀ナル密林ト谷地ニシテ、谷地ハ殆ンド沼澤地ナリ。一帶ニ身丈ヲ沒スル野草繁茂スル僻處ノ地ナリシガ、鐵道布設工事ニ伴ヒ、移住スル者日ヲ遂ウテ増加シ、物資ノ流動モ之ニ伴ヒ繁盛トナレリ。然ルニ解氷後ハ、之ガ輸送ハ山嶽地帯ヲ通ズル小徑ニヨリ、龍鎮ヨリ約五十軒ヲ馬車ニ依リ輸送スル状態ナリキ。從ツテ此ノ間ニ於ケル匪賊ノ跳梁ハ益々活潑トナリ、匪害モ頗ル甚大ナルモノアリキ。

當時中隊ハ、擔任區域約百十軒ノ間ニ、大小七個所ノ分遣隊ヲ配置シ、工事ノ掩護、資材ノ保護ニ任ジタリ。然レドモ長大ナル地域ニ分散配置ヲ執レルヲ以テ、中隊長ノ手裡ニアル兵力ハ僅々二十名内外ニ過ギズ。

中隊長ハ僅少ナル手兵ヲ以テ、隨所ニ出沒スル匪賊ヲ求メテ、常ニ討伐出動ニ寧日ナキ状態ナリキ。

0607

本戦鬪當時中隊長ハ、辰清ノ北方三十八軒餘ノ郷家窩輪ニ出動、討伐實施中、六月二十五日午前八時頃留守隊ヨリ左記要旨ノ電話報告ニ接ス。

「本六月二十五日午前四時頃、北起百十五軒(辰清守備隊ノ西南約三軒)ノ山林ニ於テ、榊谷組ノ馬車五十臺襲撃ヲ受ケ、食料及建設材料等掠奪セラレタリ。」ト。右報告ニ接シタル中隊長ハ、直ニ出動地ヨリ竹下曹長以下十三名ヲ派遣討伐セシムルニ決シ、即時辰清ニ歸還該匪ノ討伐ヲ命ジタリ。

(1) 敵 匪

平康徳、金仙鳳ノ合流匪約五十名

(2) 我 軍

竹下曹長以下十三名

内 譯 小銃分隊 上等兵以下七名

輕機分隊 同 三名

擲彈筒 上等兵一、兵一

三、討伐命令ヲ受領シタル竹下曹長以下ハ、直ニ馬車ニ依リ辰清ニ歸還、携帶口糧三日分ト、彈藥ノ補充ヲ受ケ、六月二十五日夜半出發、前記馬車遭難地點ニ到リ、匪賊ノ足跡ヲ求メ、濕地山河ノ間ヲ西進スル

0608

コト連續三日、遂ニ大田公司西方約十五軒附近ノ森林ノ切目凹地ニ、拳大ノ動的存在ヲ認ム。(當地方山嶽地帯ハ白樺密生シ谷地ハ殆ンド沼地ニシテ野草繁茂シ歩行困難ナリ。)

討伐隊ハ直ニ白樺ノ密林中ヲ迂回、陰蔽近接スル事約三軒ニシテ、先程發見シタルハ正シク四五十頭ノ馬群ナルコトヲ確メタリ。尙仔細ニ觀察スルニ、眞近ノ林縁ヨリ煙ノ立昇ルヲ發見セリ。是正シク求ムル匪賊ナルハ疑フ餘地ナク、直ニ之ヲ攻撃スルニ決ス。

小銃分隊ヲ匪賊ノ背後ニ迂回セシメ、後方高地ヨリ輕機分隊ハ、馬群ト匪賊トノ中間開闢地ニ對シ、射撃ヲ準備シ、馬群ト匪賊ヲ遮斷スル任務ヲ與へ、擲彈筒ノ銃聲ニヨリ、一齊ニ攻撃前進スベキヲ命ズ。

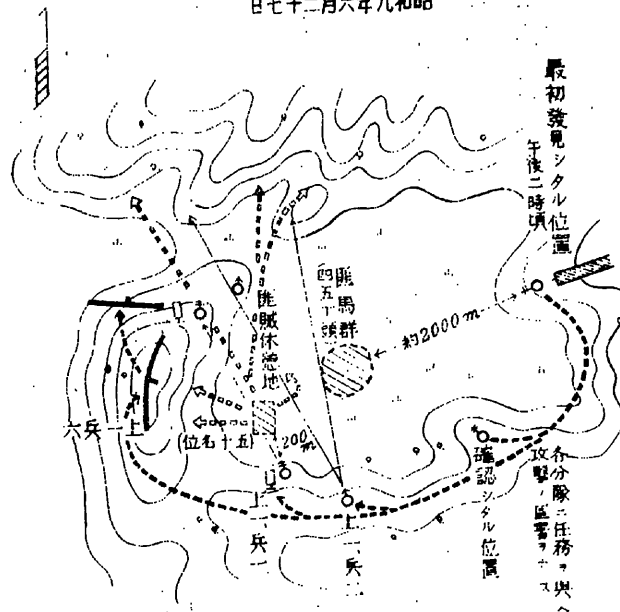
右ノ如キ區署ヲナシ、各々所命ノ地點ニ向ヒ分進セシメ、逐次包圍ヲ縮少シ、二百米附近マデ近接シタル頃、稍々動搖ノ氣配アルヲ看取セルヲ以テ、直ニ重擲筒ニ射撃開始ヲ命ズ。時ニ六月二十八日午後四時三十分頃ナリキ。

不意ニ重擲筒ノ射撃ヲ受ケタル匪賊ハ、極度ニ狼狽シ直ニ馬群ニ近ヅキ逃走ヲ企テタルモ、二百米附近ニ近接シアリタル輕機分隊ハ、急射撃ヲ以テ之ヲ阻止セリ。此ノ急射撃ヲ受ケタル匪團ハ、後方ニ遁走セントシタルヲ、背後ノ高地ヨリ小銃分隊之ヲ濺撃シタルヲ以テ、全ク戰鬪意識ヲ喪失シ、四分五裂、逃避スルノ已ムナキ状態ニ至レリ。

0609

戰鬪經過要圖

昭和九年六月二十七日



匪團ハ、全ク豫期セザリシ討伐隊ノ攻撃ヲ受ケタルト、地ノ利ヲ占有セラレタルトニヨリ、大ナル抵抗ヲ試ムル能ハズ、死體、兵器、馬群ヲ放棄シ、密林中ニ退路ヲ求メ、西北方ニ逃走セリ。時ニ六時三十分頃ニシテ、日没ノ迫レルト、密林中ニ分散セルトヲ以テ、追撃ノ不利ナルヲ覺リ、馬匹ノ捕獲ヲ行フニ決シ、兵力ヲ集結ス。

彼我ノ損害

我が軍ナシ。

敵匪ヨリノ鹵獲品

小銃 二

彈藥 (小銃 二五〇
拳銃 五〇〇)

馬 匹 三十二頭

鞍 二十二個

五九

0610

衣類 十五點
死體 九

六〇

四、適切ナル戦闘指導ニ依リ

敵ヲ包圍シ殲滅セル戦例

昭和十一年十一月五日午前七時〇分、密偵ヨリ濱江省濱縣揚家燒鍋東方約六村ノ地點（萬頭嶺）附近ニ、匪首不明ノ土匪約五十名蟠踞中ナリトノ報ニ接シ、伊藤部隊ハ小銃二個分隊、輕機一、重機一ヲ配屬セラレ、直ニ萬頭嶺ニ向ヒ出發ス。

部隊ハ午前十時〇分頃、萬頭嶺西方約二村ノ無名部落ニ到着シ、約五分休憩ス。其ノ間ヲ利用シ滿人密偵一名ヲ派ス。

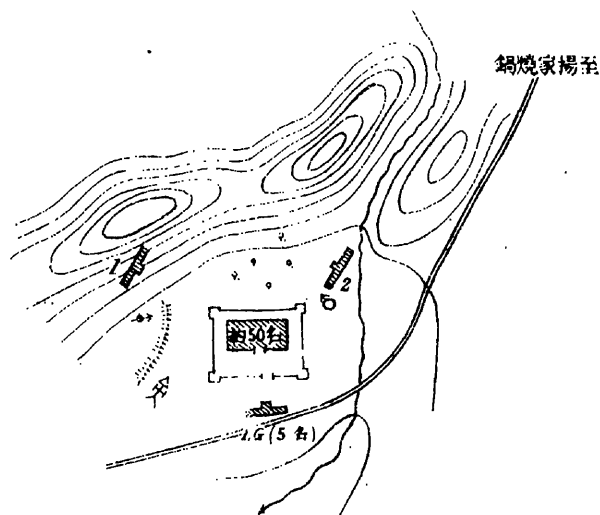
部隊ハ休憩後、再ビ萬頭嶺ニ向ヒ行軍ノ途中、左記情報ヲ得タリ。

左記

- (1) 匪ハ現在萬頭嶺滿人部落ニアリテ、晝食準備中ナリ。
- (2) 匪ハ警戒兵ナク、全員家内ニアリテ休憩中ナリ。

0611

圖要備配



右ノ報ニ接シ、部隊ハ萬頭嶺ニ到着スルヤ、直ニ左圖ノ如ク配備ニツク。

小隊長ハ、各分隊ノ配備完了後、

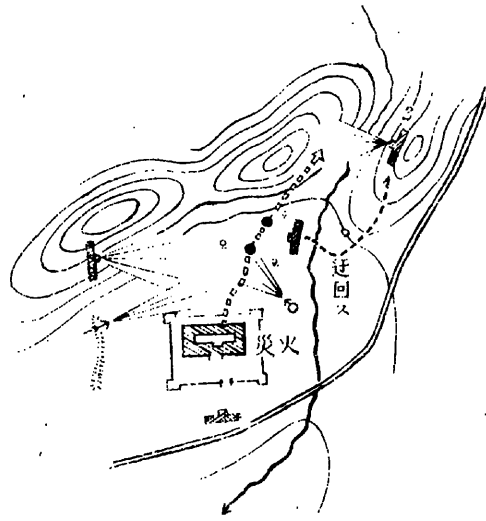
曲射歩兵砲ノ射撃ヲ以テ、家屋内ノ敵ヲ攻撃シ、匪ノ逃走セントスルニ對シ、四方ヨリ之ヲ射撃セント決心ス。

先ヅ歩兵砲ヲ以テ射撃スルヤ、匪ハ今ヤ食事中ナリシモノノ如ク、右往左往、當ニ蜂ノ巢ヲ破リタルガ如シ。

匪ハ後方雜林中ニ、逃走セントシテ後方出入口ヨリ我先ニト走り出デントス。我ガ機關銃ハ入口ニ射向ヲ向ケ、連射セシヲ以テ匪ノ大部ハ入口

0612

戰鬪要圖



小銃へ餘リ射撃スル事ナク
自動火器、Aノ射撃ニヨリ
撃滅ス

ニテ死傷ス。

六二

土塀内ノ匪ハ、正ニ進退谷マリ、曲射歩兵
砲ノ連續射撃ノ爲、家屋ハ火災ヲ起シ、遂ニ
一部ヲ除キ大部ハ撃滅サレタリ。

彼我ノ損害

我 負傷 一

彼 死體 二八

負傷(意識不明ノ者)七

小銃 一五、同彈藥、三七〇

拳銃 八、同彈藥、九〇

其ノ他重要書類若干

敵死體ハ大部後方出入口附近ニ集積シ、約九
名ハ火災ノ爲燒死體トナリ。負傷兵ハ雜林中
ニ逃亡ノ途中射撃サレシモノナリ。

0613

五、敵ノ意表ニ出デ之ヲ殲滅シタル戦例

- 一、昭和十二年九月十五日、熱河省平泉東北方約二十五軒大杖子溝奥地ニ於テ、縣警察討伐隊ト交戦シ受傷セル匪首三合(部下四〇ヲ有スル土匪)ハ、部下十名ヲ護衛トナシ、目下石門子溝(平泉東北方十二軒)峪地三軒屋ニ潜伏シ、傷ノ手當中ナリトノ密偵報ヲ受ク。其密偵ハ中隊常備密偵ニシテ、常ニ平泉街東西門ニ位置シ、田舎ヨリ街ニ這入ル住民ヨリ情報ヲ蒐集セシメ在リシ密偵ユシテ、當日モ東門ニ張込ミ中、傷藥及繃帶ヲ多量ニ所持スル農民ヲ發見シ、訊問スルモ言ヲ左右ニシテ語ラズ、約半日取調ベ漸ク右情報ヲ自白セシメタルモノナリ。
十五日午後七時三十分、右情報ヲ得タル岩佐部隊、山本隊ハ、明十六日拂曉ヲ期シ、此ノ敵ヲ包圍殲滅スルニ決シ、中隊長以下三十二名、十六日午前二時三十分、駐屯地平泉出發、農民ノ道案内ニテ、途中順調ニ午前五時小黒岔(目的地東南方二軒、谷一ツ手前)ニ到着、情報ヲ蒐集セルニ、三合以下十餘名潜伏中ナル事確實トナレリ。
- 二、小黒岔部落ヨリ住民一名ヲ伴ヒ、山ニ登リ、嶺傳ヒニ目的地ノ東南側高地ニ到着、時ニ東天漸ク白ミ初メシ午前五時五十分ナリ。

中隊長ハ、△地（左記要圖）ニ於テ、敵ノ位置及地形ヲ偵察シ、敵歩哨ノ山上ニナキヲ確メ、第一分隊ヲ南側高地ニ陣地占領セシメ、第二・第三分隊ヲ北方高地ニ西方斜面ヨリ迂回セシメタリ。小隊長ハ第二・第三分隊ヲ率ヒ西方斜面ヲ降り、北側高地ニ登リ初メシ時、一人ノ匪賊ガ銃ヲ肩ニ負ヒ、鼻唄ヲ唄ヒナガラ谷ヲ降り、老鍋ニ向ヒ歩キ行キシヲ見タルモ、大事ノ前ノ小事ト思ヒ、之ヲ看過シ北側高地ニ登ル。

右匪賊ハ第一分隊ノ占領セル西端高地ニ行キ、晝間ノ展望哨トナル者エシテ、其ノ途中ナリシナリ。夜ハ大方明ケ放レ、南方高地ヨリ北方高地ヲ占領セル分隊ノ接敵行動見ユ。然レドモ谷底ハ高地ヨリ百五十米位下エシテ、朝霧深ク垂レ籠メ、三軒屋ノ屋形漸ク見ユル程ナリ。

第一分隊ハ要圖ノ如ク陣地占領終リ、北側高地ニ、第二・第三分隊モ概ネ要圖ノ如ク陣地占領シ、小隊長占領終リノ合圖ニ帽子ヲ高ク擧グ。

此ノ時第一分隊長ハ、東側ノ家ノ門前ニ歩哨ノ在ルヲ發見シ、中隊長ニ報告ス。

敵歩哨ハ、腰掛ニ腰ヲ下シ、居睡リ居ルモノノ如ク動かズ。朝霧モ霽レ上リ、嵐ノ前ノ静ケサ。時ニ午
前六時二十五分ナリ。

三、中隊長ハ準備全ク成ルヤ、傍ノ擲彈筒手ニ命ジ、東端ノ家ノ門前ニ向ヒ榴彈ヲ撃チ附ケルト同時ニ、第

一分隊ノ、輕機關銃ヲシテ、門前歩哨ヲ射撃セシム。榴彈ハ門前七八米ニ於テ炸裂ス。炸裂ト同時ニ輕機關銃ハ家ニ逃入ラントムル歩哨ヲ射殺ス。

第二・第三分隊ニ於テハ、敵ノ周章狼狽シテ裏口ヨリ首ヲ出スヲ機ヲ失セズ射撃シ、益々敵ヲ狼狽セシメタリ。

敵ハ二名ヲ裏ノ石垣ニ據ラシメテ、第二・第三分隊ヲ射撃セシメ、主力ハ表ヨリ東側高地斜面ニ、一部ハ第一分隊ノ占領セル山脚ニ沿ヒテ西方ニ逃ゲントスルヲ、小隊長ノ手下ニアル擲彈筒及第三分隊ハ之ヲ捉ヘテ射殺シ、敵主力ノ退路ヲ全ク扼シタル第一分隊及第二分隊ハ、雨裂ヲ利シテ逃走セントスル敵ヲ沈著ニ射撃シ、匪首以下三名ヲ殲セリ。此ノ時雨裂ノ終ヨリ這出セル一名ノ敵ハ、所在ノ石ヲ利用シテ狙撃ス。其ノ狙撃ノ確實ナルコト驚クバカリナリ。距離三五〇米程ナリシモ、我ガ射撃命中セズ。第一・第二分隊ニテ集中射撃スルモ、效果ヲ認メ得ザリキ。中隊長ハ射撃中止ヲ命ジ、日頃訓練セル狙撃兵三名ヲ指名シテ、一齊ニ射撃セシメタリ。敵ハ一回高ク延ビ上リタルモ、其ノ儘倒レ再ビ立たズ、遂ニ射殺セリ。之ヨリ先、石垣ニ據リ抵抗ヲ續ケン二名モ、小隊長自ラノ一發ノ手榴彈ニ殲サレタリ。斯ノ如クシテ戦局ハ終局ヲ告ゲタリ。時ニ午前六時五十分ナリ。敵十一名中一名ヲ逸セシノミ、匪首以下十名ヲ殲シ、拳銃(五)、回彈(九五發)、小銃(六)、回彈(一二七發)、國幣四圓七拾錢、衛生材料若干

ヲ鹵獲セリ。

我ニ損害ナク、小銃弾二〇六發、重擲彈四發、手榴彈二發ヲ射耗セリ。

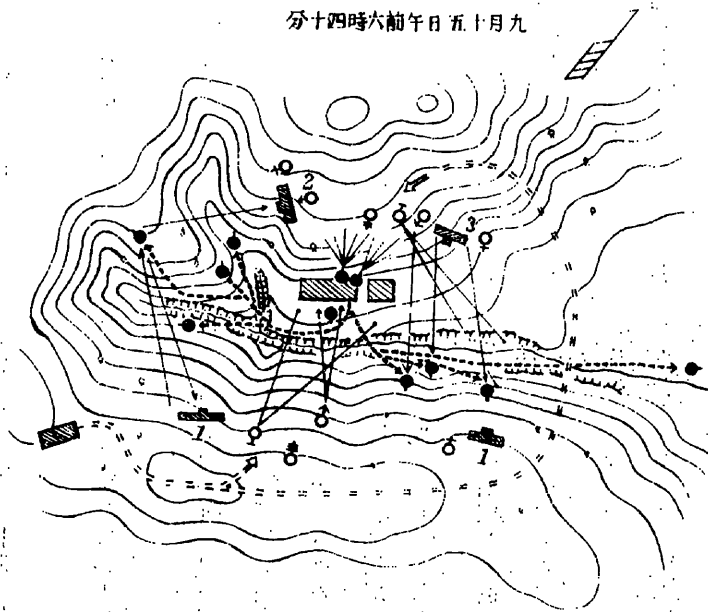
四、本戦闘ニ於テ、戦闘前ニ於ケル準備ノ周到ナリシト、小長隊ノ大事ノ前ノ小事トテ一匪賊ヲ逃シ、迅速ニ所命ノ障地ヲ占領セシ行動ハ、決斷ノ範ト爲スニ足ル。

小銃手中、狙撃手ノ技能向上ニ勉メ來リシ中隊ノ狙撃手ハ、四〇〇米射場ニテ伏的ニ五發中四發ハ確實ナル命中ヲ期シ得ル程度ニ向上セシメ得タリ。

然シテ戦闘ニ際シテ、常ニ分隊長ノ傍ニアリテ、分隊長ノ示ス目標ノミ専門ニ射撃セシメタリ。

石門子附近戰鬥概況圖

九月十五日午前六時四十分



六六

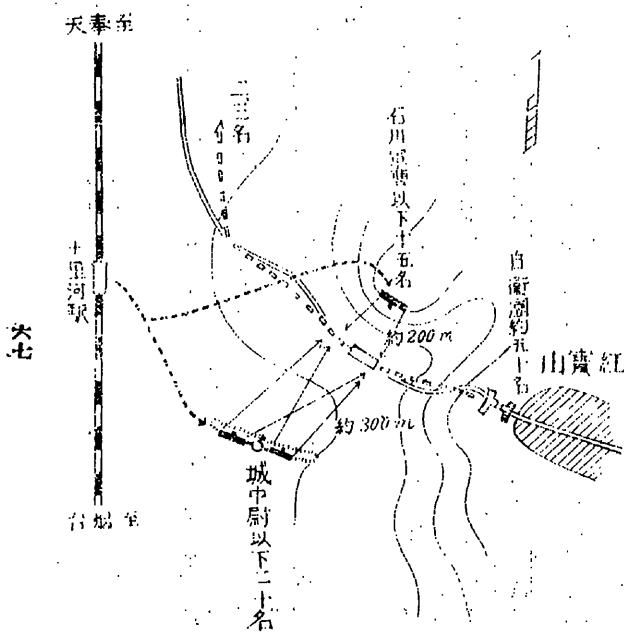
0617

本戦闘ニ於テ、偶々前記ノ如ク狙撃セシメ、效果ヲ收メ得タリ。

六、敵ノ意表ニ出テ包圍殲滅シタル戦例

昭和七年一月五日正午頃、十里河東方約四軒附近紅寶山ニ、匪團約四〇（全部乘馬）進入セルヲ知り、獨立守備歩兵第三大隊第三中隊一小隊（當時煙臺警備中）城中尉ハ、部下小隊（三十餘名）及十里河分遣隊長以下五名ヲ合セ指揮シ、當匪團ヲ攻撃ニ決ス。状況地形要圖ノ如シ。

紅寶山部落自衛團（約五〇名）ト交戦シ、北方ニ退却、其ノ銃聲ヲ知ル。小隊長ハ要圖ノ如ク包圍的隊形ヲトル。此ノ際小隊長以下遮蔽シ我が射撃效力ヲ十分發揚シ得ベキ地點ニ匪賊到達スルヤ、機ヲ失セズ之ヲ猛射シ、遂ニ殲滅ス。



0618

七、克ク困苦ニ堪ヘ敵ヲ包圍殲滅シタル戰例

六八

一、拉濱線沿線地區ニ蟠踞地ヲ有シタル徳林ノ麾下ニ參ジテ、猛威ヲ逞ウセシ双龍匪約二七八、昭和十年十月月初旬頃ヨリ、小坡子西方地區ニ於テ、六道嶺驛ノ襲撃ヲ企圖シ、十月七日確實ニ該驛襲撃ヲ決行スルトノ密偵ノ報ニ依リ、獨守歩第十一大隊第三中隊長石川大尉ハ、部下四五名ヲ指揮シ、同日午前六時、新站驛待機中ノ裝甲列車ヲ以テ、六道嶺ニ急進セリ。

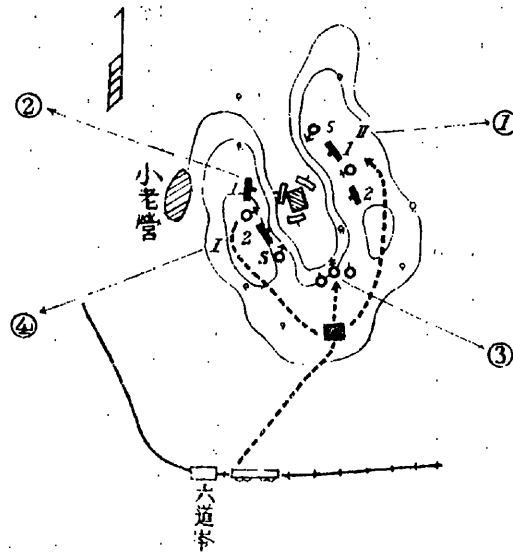
二、午前七時三十分、六道嶺驛ニ到着セシ石川大尉ハ、豫テ承知シタル蟠踞地ノ逆方向ニ對シ、裝甲列車山砲ヲシテ數十發ノ射撃ヲ行ハシメタル後、下車ヲ命ジ、前進準備ヲ整ヘ、高瀬分隊ヲシテ驛東北方約四百米附近ヲ流ルル溪浪河ノ渡渉場偵察ニ向ハシメ、爾後前進路偵察斥候トシ部隊ノ誘導ニ任ジ、峻嶺、溪谷、茂林ヲ跋涉シ、困苦ニ堪ヘ、遂ニ目的地南方高地ニ到着セリ。時ニ午前十時四十分ナリキ。同地ニ休憩ノ間、林間ヲ透シテ北方一軒家附近ニ敵匪ノ歩哨ヲ發見シ、直ニ後續中ノ中隊長ニ報告セリ。中隊長石川大尉ハ本狀況ヲ知り、敢然包圍殲滅スルニ決シ、左記要圖ノ隊勢ニヨリ、一匪ト雖モ敗走セシムル事ナク、完全ニ之ヲ殲滅セリ。

彼我ノ損害

0619

小老營附近戰鬥經過要圖

昭和十一年十月七日



我 戰死 一

敵匪 遺棄死體 二七

① 第一分隊内ノ中知上等兵ハ敵トノ距離約十米ニ在リテ手榴彈投擲ノ際敵彈ニ斃ル

② 第二小隊ハ包圍ノ態勢ヲ整ヘテヨリ一軒家トノ距離約一〇〇米附近迄近接シタル時第一小隊ハ突入セリ

③ 第一小隊ハ第二小隊ニ先チ包圍態勢ヲ終ヘ數回擲進シ、軒家トノ距離約十米附近ニ於テ一齊ニ手榴彈ヲ投擲シ小隊長先頭ニ該正面ノ窓ヲ蹴破リ突入シ屋内ニ在リテ抵抗ヲ續ケタル十名ヲ倒シ完全ニ之ヲ殲滅セリ

④ 第一小隊突入時中隊長ハ一軒家トノ距離約一五〇米附近ニ在リ
第二小隊ハ包圍態勢ニ移ル間猛烈ニ射撃ヲ受ケ前進困難ノ状態ナリキ

0620

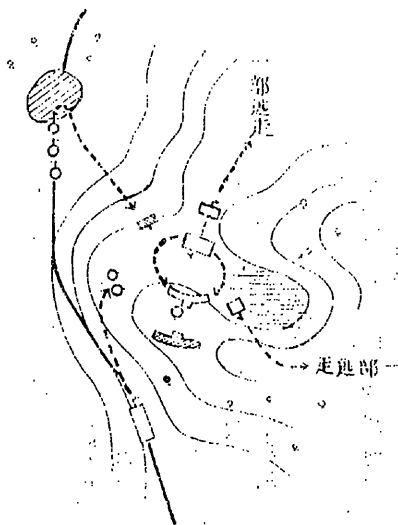
八、機ヲ制シ敵ヲ包圍殲滅セシメタル戦例

昭和十一年十一月上旬ヨリ、主力ハ討伐出動中、獨守歩兵第十七大隊第四中隊殘留隊長吉松中尉ハ、諜報ニ依リ、匪賊約百五十名ハ爐家屯ニ宿營スルコト確實ナルヲ知り、乘馬小隊ヲ以テ討伐ヲ決シ、爐家屯ニ向ヒ前進セルモ、既ニ匪賊ハ爐家屯ヲ南下セリトノ住民ノ言ニ依リ、直ニ追撃シ、爐家屯南方二千米附近ニ匪賊ヲ發見シ、直ニ交戦セルモ、匪賊ハ又東南方ニ逃走セリ。

小隊ハ〇〇軍曹以下三名ヲ斥候トシテ直ニ追撃。

午後三時〇〇軍曹斥候ハ、後大平山搜索中、小隊ノ

先頭ヲ前進中ノ某上等兵ノ、「アツ！匪賊ダツ！」ト言フ聲ニ前方ヲ望メバ、右ノ凹地ノ入口ニ一人ノ匪賊立哨中ナリ。小隊ハ速カニ散開、射撃開始、匪賊ハ不意ノ射撃ニ狼狽甚シク、要岡ノ如ク逃走セントセシモ、地形及我軍ノ包圍射撃ノ爲、一時間餘ノ交戦ノ後、遂ニ殲滅ニ至レルモノトス。



我 死傷 一名(戰死)
敵 死傷 八〇名

傷者 一六名

斃死馬 二七頭

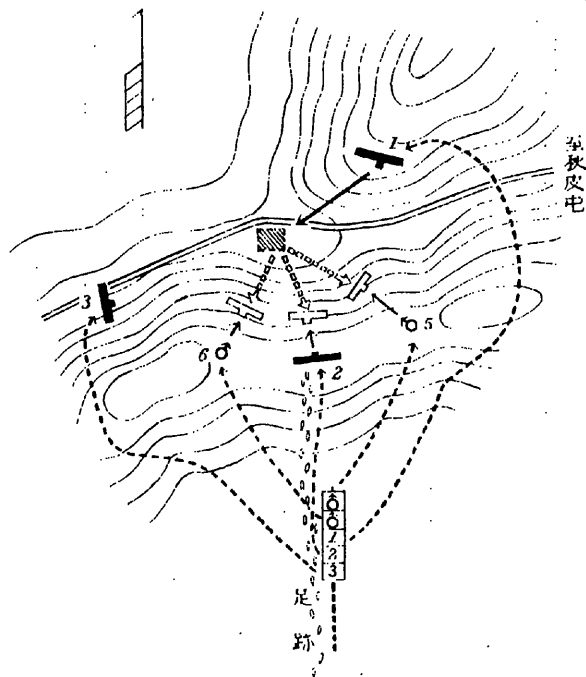
鹵獲兵器彈藥多數

迅速ナル目標發見。(匪賊ヲ發見セシ某上等兵ハ、入營前、滿軍ノ將校ナリシガ故ニ、匪賊ニ對スル事ニ熟練シアルモノナリ) 小部隊ト雖モ包圍攻撃ハ成功ノ主因ナリ。

九、虛ニ乘ジ敵ヲ包圍殲滅シタル戰例

昭和十年九月二十九日ヨリ、第三師團ハ秋期大討伐ヲ開始シ、聯隊(步三四)モ各々高度ノ分散配置ヲ取リテ行動スル事トナレリ。望月准尉ノ率キル三十二名ハ、濱江省珠河縣黑龍宮ニ分駐ヲ命ゼラレ、該地一帯ノ討匪ト治安工作ヲ命ゼラル。偶々十一月三日、一昨夜來ノ雪ハ晴レタリトハ云ヘ、北滿ニハ珍シキ積雪尺餘ニ及ビ、全ク一望千里ノ銀世界トナレリ。午前五時、小隊長ハ非常召集ヲ行ヒ、匪賊ノ足跡搜索ニハ絶好ノ日ナリト告ゲ、曾テヨク匪賊ノ通路タリシ秋皮屯(黑龍宮東北方一〇軒)ニ向フ。東天白ム頃、白雪ヲ踏

0622



七二

ミナガラ三十二名ノ勇士ハ、目的地秋皮屯ニ到着ス。該地ニテ小憩、情報ヲ蒐集シタルモ、通行者ナク、何等情報ヲ得ズ。止ムナク奥秋皮屯ニ部隊ハ前進スルニ決ス。秋皮屯ヨリ約二軒前進セシニ、山麓ニ廢家ヲ認メ、路上斥候ヲシテ搜索セシメシニ、昨夜匪賊ノ宿營セシコト明瞭ナリ。小隊ハ先ヅ廢家ニ至リ匪團ノ足跡ヲ搜索セシニ、後方密林中ニ遁走シアリ。輕機ヲ先頭ニ四周ノ警戒ヲ嚴ニシツツ密林中ヲ縫フ如ク歩行スルコト三時間餘、漸ク密林ヲ抜ケ山頂ニ達ス。(土頂子山)

小隊長ハ、休憩間晝食ヲ命ジ、休止三十分ト令ス。全員食事準備中、銃前哨前

0623

方谷間ニ上ル白煙ヲ認め報告ス。直ニ食事ヲ止メ、部隊ハ土頂子山ヲ降り、白煙上ル方向ニ進ミシニ、匪賊ノ足跡白煙ノ方向ニ續キアリ。部隊ヲ方谷間ニ隠蔽シ、小隊長自ラ谷地ヲ展望スルニ、廢家在リテ、匪賊ハ小銃ヲ廢家入口ニ立掛ケ、休憩シアルヲ確認ス。直ニ部隊ニ包圍隊形ヲ取ラシメ、攻撃ニ決ス。匪賊ハ我アルヲ知ラズ、悠々ト休憩シアリ。完全ニ包圍隊形ヲトリ終ルヤ、先ヅ第一分隊ニ命ジ、廢家ニ向ヒ集中火ヲ浴セシニ、匪賊ハ第五・第六・第二分隊正面ニ前進シ來ル。至近距離迄接近セシメ猛射セル爲、匪首仁義以下十八名瞬時ニシテ殲滅ス。

成功ノ原因

敵ノ慮ニ乗ジタルコト。

地ノ利ヲ得タルコト。

天候氣象ノ利用ニ依ルモノト言フベシ。

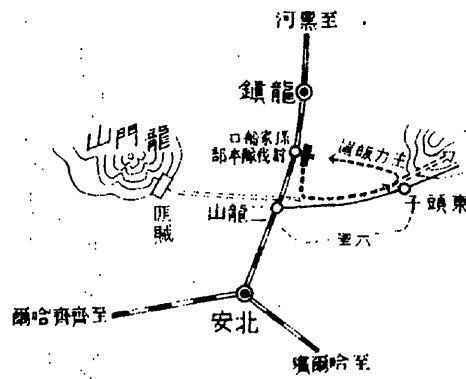
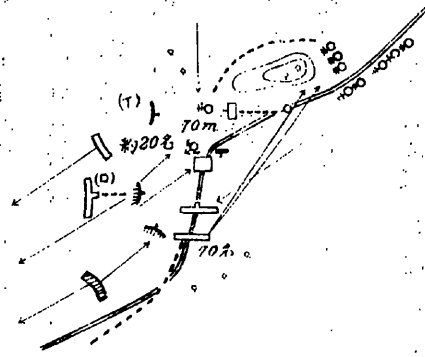
十、勇敢ナル突撃ニ依リ

衆敵ヲ撃退セシメタル戦例

昭和九年八月二十八日、龍門山附近ニ蟠踞セル平康徳匪、海龍匪、其他ノ合流匪ノ一部、二龍山附近ノ村落

ニ出沒セルノ報告ニ接シ、直ニ裝甲軌道車一臺ニヨリ、曹長以下八名ヲ先遣、匪情ノ蒐集ヲ命ズ。(時ニ午
後八時)爾後同先進隊ハ下關附近ニ於テ數十名ノ匪團ト遭遇シ、二十八日ヨリ三十日ノ朝ニ至ル間追撃、殊

七四



ニ二十九日ノ夜ハ、匪團増加隊二百餘名ト、山中ニ於テ相對陣シテ夜ヲ徹ス。此ノ間負傷一名ヲ出シ、中隊
(龍鎮)ニ一名ノ報告來ル。依ツテ中隊長ハ部下百餘名ヲ指揮シ該地ニ出動ス。

0625

三十日正午頃、先遣隊ハ相會シ、之ヲ追撃シ、附近山中ヲ搜索セシモ、遂ニ東方遠ク山中ニ逃走セルヲ知リ、三十一日中隊主力ヲ、一先ヅ孫子船口ニ歸置セシメ、部下十六名ヲ率ヒ、乘馬隊ヲ以テ東頭子ニ向フ。時ニ午前十時ナリキ。

此ノ時ニ於ケル中隊長ノ匪情判斷

敵ハ二十八日來ノ猛攻ト、三十日中隊主力ノ追撃トニ依リ、遂ニ鐵道沿線部落ノ襲撃ヲ斷念シ、山嶽地帯ヲ利用シテ、遠ク通北地方ニ退却セシモノト判斷ス。

此ノ戦闘ニテ得タル教訓

- (1) 小數ナル兵力ニテモ、旺盛ナル攻撃精神、必勝ノ信念ヲ堅持シテ戦闘ヲ持續セバ、必ズ戰局ハ有利ニ發展スルモノナリ。
- (2) 休憩、宿營、如何ナル場合ト雖モ、駐軍間ハ必ズ警戒兵ヲ出シテ置ク事緊要ナリ。
- (3) 一名ト雖モ敵ノ側背ニ迫レバ戰勝ノ端緒トナル。
- (4) 不利ナル態勢ナリシモ一下士官勇敢ニ突入セル爲、二十倍ニ近キ敵ヲシテ退却ノ已ムナキニ至ラシム。
- (5) 討伐ハ萬難ヲ排シテ徹底的ナルヲ要ス。

(6) 休憩間又銃スルハ考慮ヲ要ス。

參加部隊

西島部隊立川隊 乘馬隊

兵力 將校 一名

下士官 二名

兵 十一名

敵兵力 二百餘名

十一、一分隊ノ勇猛果敢ナル突入ニ依リ

主力ノ突入ヲ誘起シ有利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例

一、昭和九年第二獨立守備隊、吉林省ノ討伐ヲ實施スルヤ、大小匪賊ハ逐次吉林省奉天省境ニ逃走シ、日滿軍ノ討伐ヲ怖レツツアリタリ。

就中、趙旅馬旅ヲ頭目トスル約八十八、蛟河口附近ニ本據ヲ有シ、隱現出沒、惡逆ニシテ各地ヲ横行シ其ノ勢力侮リ難キモノアリタリ。

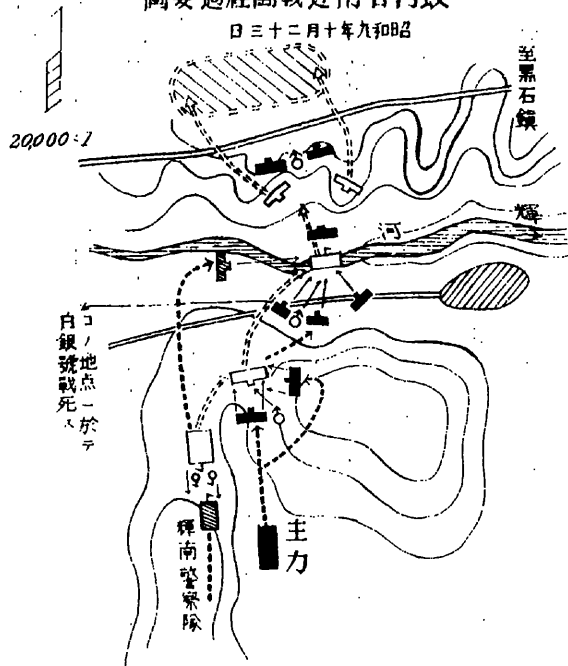
小隊ハ大隊命令ニ基キ、輝南縣輝南警察乘馬隊三十騎ヲ併セ指揮シ、十月二十三日午前十時、輝南ヲ出發
蛟河口ヲ經テ黑石鎮ニ向ヒ前進スルノ命ヲ受ケ、先ヅ蛟河口ニ向ヒ前進スベク、警察乘馬隊ヲ先頭ニ小
隊主力大行李ノ順序ニ前進シ、午後三時蛟河口南端ニ於テ、敵ノ監視兵ヲシキ者ヲ發見シ、更ニ土民ニ
依リ附近ノ匪情ヲ綜合スルニ、蛟河口ニ趙旅匪潛入シアリテ、小隊長ハ直ニ之ヲ攻撃スルニ決シ、警察
乘馬隊ヲシテ左側面ヨリ、小隊主力ハ敵ノ退路ニ迫ルベク急進ス。
敵軍ハ趙旅及馬旅ノ指揮スル合流騎乘匪約八十騎ニシテ、我軍ハ田中少尉ノ指揮スル乘馬步兵三十名、
警察乘馬隊三十騎ナリ。

二、我ガ軍猛烈ナル進撃ヲ開始スルヤ、敵ノ監視兵ヲシキモノ、急據退却、同時ニ蛟河口北端家屋ヨリ、續
々北方ニ向ツテ退却ヲ開始スルヲ目撃ス。小隊ハ勇奮退路ニ向ヒ進撃ニ依リ、距離遂次近迫ス。敵ハ退
却スルコト約二軒、丘上ニ散開、遂ニ我ニ向ヒ射撃ヲ開始セリ。

此ノ時各分隊下馬、小銃一ヶ分隊、輕機關銃一ヶ分隊ヲ以テ正面ヨリ、小銃一ヶ分隊ヲ以テ敵ノ側背ニ
向ヒ攻撃ス。敵ハ我ガ疾風迅雷的ノ猛撃ニ應戦スルノ邊ナク、俄カニ動搖ヲ來シ、遂ニ退却ヲ開始ス。
之ヲ目撃セル一分隊ハ、敵ノ混亂ニ乘ジ、勇猛果敢ニ敵中ニ突入シ、之ト同時ニ各分隊續イテ敵中ニ突
入、之ガ爲敵ハ愈々混亂シ、或ハ馬ヨリ飛下リ逃ゲントスルモノ、或ハ乘馬ノ儘逃ゲントスルモノ等ア

圖要過經闘戦近附口河蛟

日三十二月十年九和昭



リ士氣全ク滅裂シテ、北方ニ死力ヲ盡シテ退却ス。此ノ時ニ於テ敵十數名ヲ斃セリ。我ハ益々勇奮百倍退却スル敵ヲ猛撃ス。敵ハ遂ニ對岸高地ニ攀登シ、遂次我ニ應戦セントス。茲ニ於テ小隊長ハ、勇敢先頭ニ立ツテ攻撃ヲ開始ス。敵ハ我ガ攻撃

七八

ニ怖レヲナシ、早クモ高地ヲ捨テ、退却ヲ開始ス。我軍ハ續イテ追撃射撃ヲ浴セ敵ヲ全ク潰滅セシメタリ。

小隊ハ愈々急追スベク、敵ノ足跡ヲ求メテ前進スルコト三十分、敵ノ全ク四散セシ時、將ニ陽ハ西山ニ落チ、暮色漸ク蒼然タラントス。加之雪サヘ降り來リテ視察全ク困難トナリ、遂ニ敵影ヲ失ス。時ニ午後五時三十分ナリ。

我ガ軍ノ損害 斃馬一 (白銀號)
敵軍損害

0629

戰場ニ遺棄セル死體 一三

斃馬 八

鹵獲馬 一

士民ノ言ニ依ル負傷者 五名

敵ハ吉林、奉天省境唯一ノ騎馬匪ニシテ、銃器彈藥共ニ豊富ニ所持シ、其ノ裝備ハ優秀ナリ。
當地一帶ハ趙旅馬旅匪ノ屢々來襲セシ所ニシテ、士民一般ニ其ノ慘害ヲ受ケ、安居正業ニ就クノ餘裕ヲ
有セズ、可憐悲惨ノ狀況ナリシモ、本日ノ戦闘ニ於テ匪ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ潰走セシメシ爲、附近一
帶ノ治安ヲ確保シ、皇軍ニ絶大ナル信頼ヲナサシムルニ至レリ。

《教訓》

一、射撃教育ニ就イテ

(1) 猛烈ナル乘馬襲撃ヲ敢行後ハ、軍刀ヲ携帯セザルヲ以テ、馬上ニ於ケル拳銃射撃ノ演練ヲ特ニ必要
ト認ム。

(2) 移動目標ニ對スル輕機銃ニ騎銃射撃ノ演練ニ關シテハ、將來一般ニ進歩向上セシムルノ要アルヲ痛
感ス。

0630

二、不意ニ敵匪ト遭遇セル場合ノ展開ハ、動モスレバ密集スルヲ以テ、平素ヨリ右ノ状況下ニ時々演練ヲ要スルモノト認ム。

之ヲ要スルニ、乗馬小隊ヲシテ其ノ威力ヲ最高度ニ發揚スル爲ニハ、騎兵ト同様ニ訓練ヲ要スル感ヲ深クセリ。

三、匪賊討伐ハ、特ニ敵ノ意表ニ出ヅルコト緊要ナリ。戦闘綱要ニ明示シアル如ク、敵ノ意表ニ出ヅルハ敵ヲ制シ勝ヲ得ル要道ナルコトハ、極メテ緊要事項ニシテ、特ニ討匪戦闘ニ於テハ其ノ效果大ナルヲ痛感セリ。

即チ不意急襲的ニ攻撃セバ、敵匪ハ對應ノ手段ヲ知ラザルモノノ如ク、只一時亂射ヲ試ムル位ノ程度ニシテ、無統制ニ算ヲ亂シ退却スルヲ常トス。故ニ乗馬小隊ハ此ノ混亂ニ乗ジ、馬足ヲ利用シテ、猛烈ナル乗馬襲撃ヲ敢行セバ、精神的ニ壓倒スルノミナラズ、最近距離ニ於テスル拳銃ノ威力ヲ、最高度ニ發揚シ得ルヲ確信ス。

四、敵彈ヲ射シテ行フ乗馬襲撃ノ效果ニ就イテ

今回ノ討伐戦闘ニ於テ、特ニ必勝ノ信念ヲ堅クセシハ、敵彈ヲ受ケツ、行フ勇敢ナル乗馬襲撃ノ效果ノ偉大ナルヲ知リタルニ依ル。

0631

即チ敵匪ハ、日本軍特ニ乘馬小隊ノ襲撃ヲ日撃スル時ハ、極度ニ恐怖ノ念ヲ大ニシ、一時亂射ヲ試ミ退却スルヲ常トスルヲ以テ、此ノ際慎重ナル態度ヲ以テ下馬抗戦スルガ如キハ、一部ニ牽制セラレテ敵主力ヲ遠ク離散セシメ、之ガ捕捉殲滅ヲ期スルコト能ハザルニ至ル故ニ、稍々冒險的乘馬襲撃ヲ敢行セバ、精密ナル照準ヲ爲ス能ハザル敵匪ニ對シテハ、我ニ損害ナク、然モ敵匪主力ニ對シ徹底的打撃ヲ與ヘ得ルコトヲ痛感セリ。

十二、困苦缺乏ニ堪ヘツ、目的地ニ到着シ周到ナル

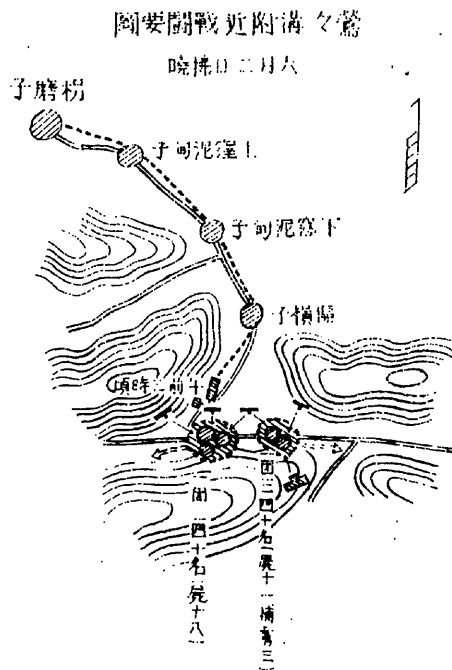
戰鬪準備ニ依リ敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘタル戰例

昭和十年夏期討伐ノ開始セラレ、ヤ、小川部隊ノ小隊ハ桓仁縣第七區楞磨子ニ位置シ、同縣ノ治標工作ニ從事ス。時恰モ播種期ニテ、水田ニ水ヲ引ク爲、道路泥濘ニシテ行動頗ル困難ナリ。而モ旬日ヲ經ズシテ雨期ニ入りタル爲、連日連夜ノ降雨ニ依リ、河川ハ悉ク氾濫、道路亦缺潰シテ、糧秣ノ追送全ク不可能トナリ辛ウシテ地方物資ニ依リ、一日一食ニテ數日ヲ行動スルノ已ムナキ状態ナリキ。此ノ時、安縣方面ヨリ青山、愛國、救國ノ合流匪約六・七十名、楞磨子ヲ隔ツル約三邦里、鶯々溝ニ侵入蟠踞中ナリトノ情報ヲ得、之ヲ討伐スルニ決ス。六月一日午後八時、暗黒中降雨ヲ衝イテ楞磨子——下窪泥甸子——上窪泥甸子ヲ經、惡路

難行、六月二日午前二時、漸ク彌嶺子ニ達シ、匪情ヲ蒐集セル結果、霧々溝ニ該匪ノ蟠踞確實ナルヲ知リ、益々士氣ヲ鼓舞シ、前進シ午前三時頃要圖ノ位置ニ達シ、附近ヲ搜索セルニ、要圖ノ如キ匪圍ノ宿營狀況ヲ確認セリ。

直ニ攻撃ヲ開始セントセシモ、此ノ儘攻撃スレバ、暗黒中地形ニ精通セル匪圍ヲ逸セシムルノ怖アルヲ以テ、先ヅ包圍態勢ヲ取り、天明ト共ニ四周ヨリ攻撃スルニ如カズト、暗黒ト附近ノ地形ヲ利用シ、全ク配備ヲ完了ス。

時ニ午前四時天漸ク明ケ、指呼ノ間ニ敵、宿營部落ヲ望ム。各家屋ニハ歩哨ヲ入口ニ立哨セシメ、未ダ活動ヲ始メザルモ、家ノ入口附近ニハ二・三名ノ出入スルヲ認めタリ。我が配備ヲ全然知ラザルモノノ如ク、徒手家屋ヲ出テ用便スル等、全ク平和状態ニ在リテ、午前五時頃、敵ノ展望哨ヲシキ者一名小隊ノ陣地ニ就キ、遮蔽待機セル我が銃口前ニ登リ來リ、始メテ我ヲ發見、驚駭度ヲ失シ、山下ニ轉走セリ。



我ハ機至レリト先ヅ擲彈筒ヲ以テ宿舍ヲ目標ニ數發ヲ發射セシム。其ノ命中頗ル確實ナリ。不意ノ爆聲ニ驚キタル匪團ハ、全ク狼狽爲ス所ヲ知ラズ、家屋ノ入口ヨリ逃レ出ント、右往左往スルヲ、待チ構ヘタル各分隊ハ一齊ニ射撃ヲ集中シタル爲、匪團ハ殆ンド爲ス所ヲ知ラズ、我ガ十字火ヲ被リテ斃ルルモノ續出シ、全ク混亂四散セルモ、我ガ準備セル射撃ハ愈々正確猛烈ニシテ、殆ンド殲滅的大打撃ヲ與ヘタリ。

遺棄死體 二九

鹵獲品

捕虜 三

小銃 二三

拳銃 三

双眼鏡 一 彈藥 二、三二五

十三、側方ニ進出セシメタル一部隊ノ

勇敢ナル行動ニ依リ大打撃ヲ與ヘタル戰例

昭和十二年八月二十八日夜、逃走歸來セル被拉致者ノ報告ニ依リ、長江匪約二十八名濱綏線山市驛東南方

0634

約十二軒ノ一軒家ニ數日來蟠踞中ナル情報ヲ得タル分遣隊長山村准尉ハ、部下十六名（擲彈筒一筒、衛生兵一）ヲ以テ之ヲ討伐スベク、報告者ヲ道案内トシテ、二十九日午前二時三十分山市出發セリ。石河南方地區ハ波狀地帯ニシテ、雜草腰ヲ沒シ、各谷地ハ悉ク濕地ニシテ、暗夜案内人ヲ頼リニ難行ヲ續ク。午前六時、陽既ニ昇リタルモ、努メテ遮蔽前進中、敵ノ歩哨ヨリ遂ニ發見サル。匪ハ一部ヲ以テ抵抗、大部ハ南方ニ逸走ヲ始メタルヲ看取セシ、分隊長ハ五番（上等兵）以下四名ニ右前方ノ小稜線ニ進出スベク命ズ。

五番以下ハ勇敢ニ敵前ヲ横行シ、所命ノ地點ニ到リ、直ニ猛烈ニ射撃スルヤ、



匪ハ南方へ逃走ヲ斷念セルモノノ如ク、周章反轉濕地ニ遁入スルニ至レリ。

此ノ戦闘ニ於テ敵ニ與ヘタル損害ハ、匪首長江以下二ノ遺棄死體ノ外、逃走途中重傷ノ爲殘レタルモノ六ニ及ビ、山市南北地區ニ出沒シテ、巧ミニ行動シアリシ灰色匪長江匪ハ、斯クテ完全ニ潰滅セシムルヲ得タリ。

戦闘經過概要左ノ如シ。

一、濕地帯ハ雜草叢生行動ヲ妨害ス。

二、戦闘地ヨリ山市ニハ約四軒アリ。

五番以下ノ進出ハ、戦闘ヲ有利ニ發展セシメタルモノト思考セラレ。

重要ナル時機ニ於ケル輕機ノ故障ハ、銃ノ固癖ニ因ルモノナリシモ遺憾ナリ。

擲彈筒ハ彈著良好ナリシモ、地表面軟弱ノ爲其ノ場ニ於テ效果ヲ見ル能ハザリキ。

追撃ヲ徹底的ニ續行スルカ、或ハ豫メ警備員ヲ上ノ山市附近ニ配置シオカバ、更ニ效果大ナルモノアリシナラン。

0636

0686-2